

平成29年2月23日

## 平成29年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

市町村名	犬山市	
連絡先	部署名	経営部企画広報課
	担当者役職・氏名	主査 渡邊 樹
	電話番号	0568-44-0312
	FAX番号	0568-44-0360
	メールアドレス	010100@city.inuyama.lg.jp

## ○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ：郊外型住宅団地における高齢者対策

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。

**【実証エリアの現状】**

市のほぼ中央部に位置する前原台団地は、昭和51年に民間開発により整備された810区画の住宅団地で、市内をはじめ、名古屋市や小牧市などに勤務する人々の受け皿となった。

しかしながら、大規模団地における他の事例と同様、開発時に同世代が一斉に入居したことによる居住世代の偏りがあり、少子高齢化に起因する人口減少が一気に進み、平成17年には2,094人を数えた団地内人口は、10年後の平成27年には1,872人となり、10%以上の減少となっている。

高齢化率も著しく上昇し、平成28年1月31日現在で37.8%と、市内平均27.5%を大幅に超えている。また、平成27年に実施した空き家調査では、21戸の空き家が確認されており、このまま高齢化及び人口減少が続けば、将来的には地域コミュニティの崩壊に繋がる可能性がある。

### 【交通事情】

前原台団地周辺の公共交通機関としては、団地の入口から 650m 程西に岐阜バスコミュニティが運行する路線バスの停留所があり、市の主要駅である「犬山駅」や、総合病院、スーパーマーケットなどが立地する五郎丸地区にアクセス可能となっている。

しかしながら、前原台団地は、団地南側の入口から北側に向かって急勾配の上り坂が続く構造となっている。入口から最も離れた北側の住宅までは 1.5km ほどあり、高齢者にとって、バスの利用は極めて困難と言わざるを得ない状況である。

市が運行するコミュニティバスは、団地内まで周回しているが、火・水・木・金曜日限定の運行であり、高齢者の要望に十分に応えられているとは言い難い。

### 【解決可能な行政課題】

今回提案するルートは、前原台団地のほぼ中央に位置する集会所と団地の高齢者が頻繁に利用する総合病院を結ぶ、道のりにして約 4.0km の行程である。

自動走行の実用化により、近い将来には、近年多発している高齢ドライバーの操作ミスによる事故を減らし、高齢者の外出支援効果が期待できる。さらに先を見据えると、完全自動化に伴う人件費削減効果によるコミュニティバスの便数増加や、民間バス路線から自宅までのラストワンマイルを補完する自動走行タクシーの運行などが想定され、高齢者など交通弱者に対する日常の買い物や医療機関での受診に対する利便性が向上し、団地内の定住人口の確保による地域コミュニティの崩壊防止に繋がるものと考えられる。

- (2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

今年度、改訂作業を実施している「第 5 次犬山市総合計画」において、個別施策として「バスの利便性向上」を掲げている。

その中で、目指す方向を「効率的、効果的にコミュニティバスが運行され、交通空白地が解消し、誰もが安心して利用できる親しみやすい移動手段になっています。また、必要に応じて他の公共交通と連携した新たなバスの運行の検討や導入も進んでいます。」と定め、施策の展開方向として、「公共交通ネットワークの形成」について、「地域にとって望ましい公共交通網の姿を、「まちづくり」の視点から明らかにし、地域の実情に即した輸送サービス（鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーなど）を組み合わせることにより、最適な公共交通ネットワークの形成を目指します」と記載している。

1 月 23・24 日に市内で行われた愛知県による自動走行実証実験及び今回応募する遠隔型自動走行システムによる実証実験の成果を活用し、将来的な自動走行車両による運行の可能性を視野に入れながら、市域に平地部と丘陵部を有し、高齢者世帯が多く住む、供用開始から 30 年以上が経過した郊外型の住宅団地を多数抱える本市の地域特性に適した公共交通ネットワークのあり方を検討していく。

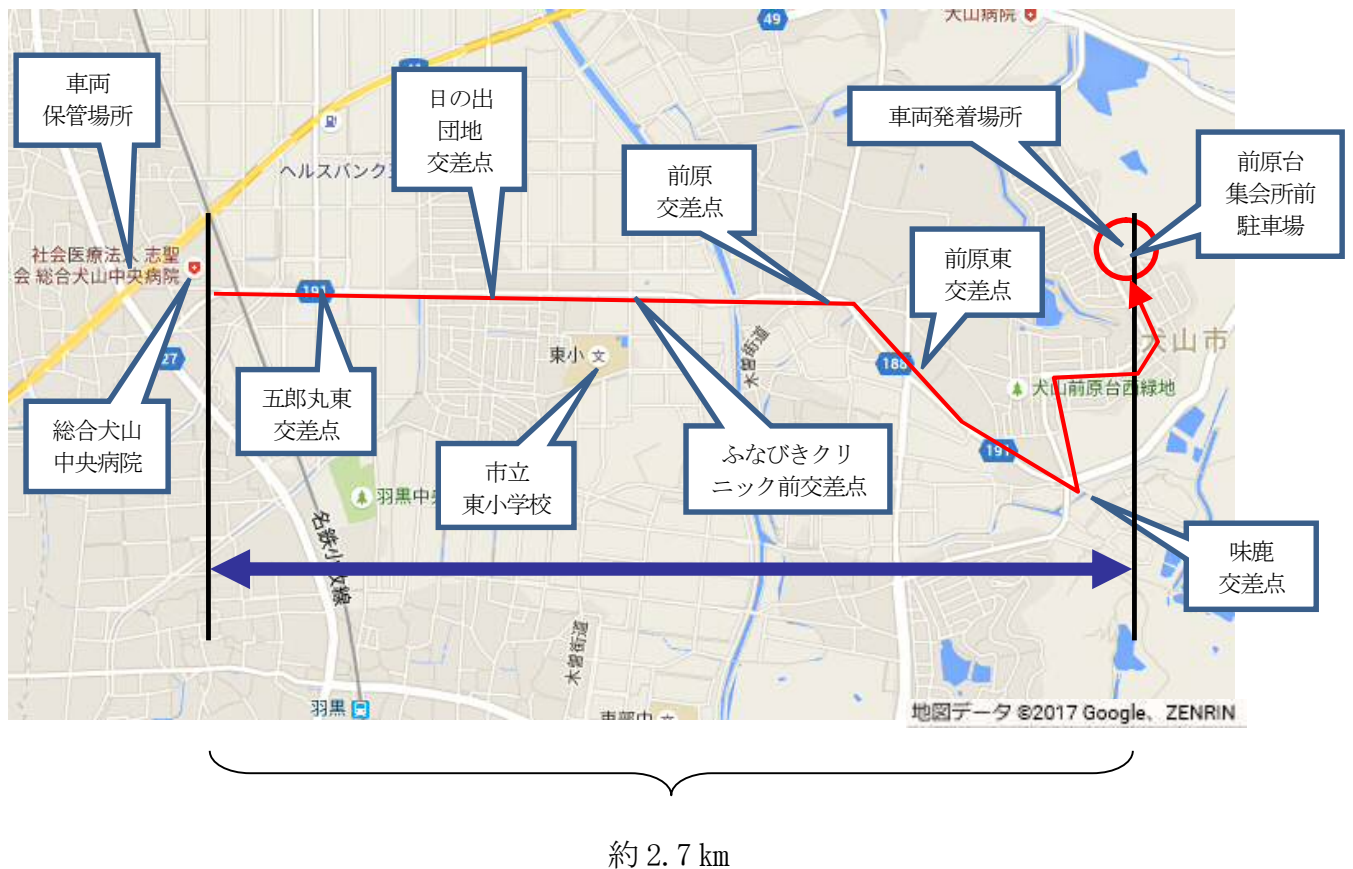
## ○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

### 1 ルート（起点→終点）

前原台集会所前駐車場 → 総合犬山中央病院

### 2 ルート（地図）



### 3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

- ①出発地の前原台団地には、約 1,900 人が居住しており、到着地である総合犬山中央病院及び近隣に所在するスーパーマーケット、ドラッグストア等を日常的に利用しているが、最寄りのバス停までは、坂道を含む最長 2km 以上を歩く必要があり、高齢者を中心に、日常的に安価に利用できる公共交通に対するニーズは高い。
- ②岐阜バスコミュニティ「明治村線」が運行しているが、最寄りのバス停は、団地の入口（味鹿交差点）から 650m ほど離れている。
- ③火・水・木・金曜日のみ、コミュニティバス今井・前原線が運行している。団地内に 5

箇所のバス停があり、団地から総合犬山中央病院へ向かうバスが1日7便、総合犬山中央病院から団地に向かうバスが1日6便運行している。

#### 4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	片道約4.0キロ
車線数	片側2車線
道路構造	歩車分離（一部区間歩道なし）、団地内勾配あり
道路種別	県道長長洞犬山線及び市道羽黒前原台線
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	県道は交通量がやや多いが、普段渋滞は発生しない
交差点	信号交差点（四差路）6箇所（うち、右折1箇所）
起点・終点	起点：前原台集会所前駐車場 終点：総合犬山中央病院 駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能
その他特記事項	近隣に学校があり、児童の登下校ルートになっている。

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

- (1) 道路の様子（主要地点数カ所）
- (2) 起点、終点場所（駅、公共施設等）
- (3) 車両待機場所（起点・終点場所と異なる場合）

別紙参照

6 高精度3Dマップの有無

有

ルート：前原台団地入口（味鹿交差点） — 総合犬山中央病院

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

平成29年1月 愛知県による自動走行実証実験実施済



①車両発着場所



②味鹿交差点付近（北から）



③味鹿交差点付近（東から）



④歩車未分離区間



⑤前原東交差点付近



⑥歩車未分離区間



⑦前原交差点付近



⑧仮設橋梁付近



⑨ふなびきクリニック前信号



⑩日の出団地交差点付近



⑪五郎丸東交差点付近



⑫総合犬山中央病院前信号



⑬総合犬山中央病院



⑭目的地付近のスーパー



⑮犬山市消防本部（車両保管場所）